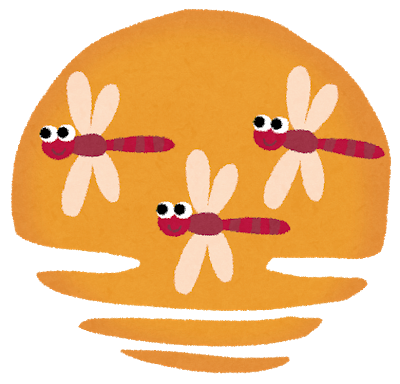


**みんなが知っている俳句**

1. 松尾芭蕉 秋深き　隣は何を　する人ぞ  
   秋が深まり、野山がどことなくさびしく感じられるようになると、人恋しくなり、隣人のことなどが気になってくる。
2. 正岡子規 赤とんぼ　筑波に雲も　なかりけり  
   空は秋晴れで、遠くに見える筑波山の上には一片の雲もない。そんな空を一匹の赤とんぼがゆうゆうと飛んでいる。
3. 高浜虚子 秋空を　二つに断てり　椎大樹  
   真っ青にすみきった秋空を、椎の大木は、その空を断ってしまうかのような勢いでそびえている。
4. 加賀千代 朝顔に　つるべとられて　もらい水  
   朝、井戸に水をくみに来てみると、朝顔のつるがつるべに巻きついていて水がくめない。切ってしまうのもかわいそうなので、近所に水をもらいに行くことにした。